

## 十字架の力を用いる

### 血潮の適用

十字架についてお話しするにあたり、明確にしておきたいことは、人々が首に掛けたり、教会の壁に掛けられている金属や木で作られたものについて話すのではないということです。それらに何も反対はしませんが、それについての話ではありません。私が語るのは、罪のための犠牲としてのイエス・キリストの十字架の死によって私たちのために完成されたものについてです。ですから、それらのすべてをカバーするために、『十字架』というシンプルなことばを用いたのです。

神が私たちひとり一人を贖うために支払うことを願った、その代価に示されている神の愛についてお話しします。その代価とは、イエス・キリストの血潮です。イエスの血が流されることを、前もって神が示している旧約聖書から見えます。そして、贖罪の日の儀式がレビ記 16 章に記録されています。神は、尊いイエスの血潮を七たび振りかけるとあらかじめ示されました。

私は東アフリカで 5 年間、アフリカ人教師のための師範学校で教えていました。私とその教師全員に強調していた 1 つのことが、要約することは上手な教育法の一つであるということです。ですから、福音書に記されているように、連続して七たび振りかけられるイエスの血潮について、非常に簡潔にお話しします。第一に、ゲッセマネの園で、イエスが苦しみながら祈っている時、汗が地面に血のしずくのように落ちました。それから、人々は大祭司の家にイエスを連れて行き、平手でイエスの顔を打ち始めました。そして血が流れました。彼らがイエスを痛めつけ、イエスのあごひげを引っ張り始めました。すると、当然のことながら、血が出てきました。

そして、イエスはむち打たれるために、ポンテオ・ピラトに引き渡されました。ローマのむちは、骨と金属がはめ込まれた皮が何本も束ねられたむちでした。ですから、むちが背中に当たると、文字通り、肉を裂いて開きました。そして、イエスが王であると主張したため、彼らはあざけて、いばらのかんむりをかぶせました。イスラエルに行くと、今でもそれと同じいばらを見ることができます。そのとげは長く、非常に硬く、とても鋭いものです。彼らは、それをイエスにかぶらせ、頭を叩いて押し付け、いばらのとげが頭皮に食い込み、血が顔を流れ落ち、あごひげで固まりました。イザヤは、イザヤ 53 章でそのことを、その容貌は損なわれ、と預言しています。現代的翻訳の一つは、イエスは人としての外見さえも失ったと言っています。その後、彼らはイエスを十字架につけ、手と足を釘で打ち付けました。そして、ついに、イエスが死んだあと、一人の兵士がイエスの心臓あたりの脇腹を槍で刺し、血と水が噴き出しました。

それが、贖罪の日の儀式に預言されていた、血を七たび振り掛けるということだったのです。それから、レビ記 17:11 で、「肉のいのちは血の中にあるからである。」とされています。また、「わたしはあなたがたのいのちを祭壇の上で贖うために、これをあなたがたに与えた。」と言っています。これは、旧約聖書のもう一つの驚くべき預言です。それはただ、イスラエル人が血と一緒に食物を食べるべきか否かについての規定ではなく、それは、十字架の預言だったのです。すべての肉のいのち、あるいはたましいは血の中にあり、あなたのたましいの贖いとするために、カルバリの祭壇の上でその血をあなたがたに与えたという意味です。そして、イザヤ 53:12 の贖いの大いなる預言的描写で、イザヤは自分のいのちを死に明け渡した、と言っています。どのようにしてイエスはそれをしたのでしょうか。血によって

です。いのちは血の中にあります。イエスは、全人類のための罪のささげ物として、ご自分のいのちを注ぎ出しました。イエスのいのちが、あなたのいのち、私のいのちの代わりとなってくれました。イエスは最後の罪のささげ物となりました。きょうは、非常に具体的なことを取り扱います。今からお話することは真実で、素晴らしいものです。しかし、必ずしもあなたが自分の人生と経験において、それを現実にする方法がわかるというわけではありません。

きょうは、イエスの血潮をどのように用い、私たちの人生においてイエスの血潮をどのように完全に働かせるかについてお話します。導入として、黙示録 12:11 を開きたいと思います。これは、今の時代の最後に待ち受けている、天と地で起こる大いなる終末の戦いについてです。神のみ使いたちが戦いに加わり、サタンとその使いたちが戦いに加わり、そして、地上の神を信じる人々が加わり、勝利が神とその民に訪れることを感謝します。そしてこの箇所は、地上の神の民、すなわち、この地上で神を信じる人々が、どのようにその勝利を手にするかを描写しています。それは、御使いたちによって、地上の信者たちについてなされ宣言です。こう言っています。

「兄弟たちは、…彼に打ち勝った。」

兄弟たちとはだれですか。みなさんや私のような、イエス・キリストを信じる人々です。彼とはだれですか。サタンです。それは、とても重要です。私たちとサタンの直接対決があることを非常にはっきりと示しています。私たちとサタンの間に他のものはありません。兄弟たちは、サタンに打ち勝ちました。

そして、どのように打ち勝ったかを教えてください。

「…小羊の血と、自分たちのあかしのことばのゆえに…」

また、その人々がどのような人であったかも書かれています。

「…彼らは、血に至るまでもいのちを惜しませんでした。」

これを一言で言うなら、彼らは献身していた、全き献身をしていた、です。サタンが恐れるのは、唯一そのようなクリスチャンです。全き献身をしているクリスチャンです。血に至るまでもいのちを惜しませんでしたとは、どういう意味でしょうか。彼らにとって、生きることは最優先ではなく、最優先することは、生きるにしても死ぬにしても、神のみこころを行なうことです。生きることは彼らにとって最も重要なことではありませんでした。最も重要なことは、主に忠実であり、主のみこころを行なうことだったのです。

さて、主の軍の兵士について話しますが、多くの方が、主の兵士となると聞くと、漠然としていて、それは感情的なものだと感じるのではないのでしょうか。私は、自分で選んだものではありませんが、第二次世界大戦で5年半イギリス軍の兵士でした。ですから一つ言わせてください。私は志願兵ではなく、徴兵されました。しかし、とにかく、その状況に入った時、指揮官から、「私たちは、決してあなたがたの命が失われることがないと保証します。」という証明を得ることはありませんでした。殺されないという条件で入隊する兵士はいません。実際、兵士が入隊する時なされる誓いのひとつに、自分は死ぬことがあるかもしれないとあります。それは、私の命の代価であるかもしれないのです。それは、主の軍においてもまったく同じです。あなたは、いのちを捧げなくてもいいという保証はありません。サタンが恐れるの

は、いのちを捧げることをいとわない人々です。結局、いのちは、かなり短いものです。それは永遠のものではなく、また楽しく安楽な生活というわけではありません。

地上でのわずかな期間のために、永遠の栄光を逃すことは、愚かかもしれません。しかし、これは、何が重要であるかという適切な価値観を持つことをという、進んだ利己主義だと思えます。私たちは、人生で最も重要なことは、神のみこころを行なうことだと言わなければならないと信じます。Iヨハネ 2:17に、素晴らしいことばがあります。

「世と世の欲は滅び去ります。しかし、神のみこころを行う者は、いつまでもながらえます。」

あなたの思いを、完全に神のみこころに一致させるとき、あなたは、決して沈められない者となります。あなたは決して挫折することなく、決して揺るがされません。あなたは、神のみこころに従うとき、神のみこころに全き確信を持ちます。生きる、死ぬは、二の次で、あなたは打ち負かされることはありません。

小羊の血によって、そして私たちのあかしのことばによって、サタンに勝利するとはどういう意味かを考えたいと思います。これは、何年にもわたって神が私に与えてくださった真理の宝物の一つです。これに値段をつけることはできません。あなたが何十億円差し出しても、十分な額ではありません。この真理の価値に見合う金銭的価値はないのです。それを、簡潔に明確にお話したいと思います。よく聞いてください。

「イエスの血潮が私たちのためにしてくださったことを神のことばが何と言っているかを、個人的にあかしする時、私たちはサタンに勝利する。」もう一度言います。「イエスの血潮が私たちのためにしてくださったことを神のことばが何と言っているかを、個人的にあかしする時、私たちはサタンに勝利する。」

ただそれを覚えようとするのではなく、みなさんに、私の後について言っていただきたいと思います。いいですか。思いを集中してください。私と一緒に言おうとしないでください。区切りながら言いますので、後について言ってください。いいですか。「イエスの血潮が、私たちのためにしてくださったことを、神のことばが何と言っているかを、個人的にあかしする時、私たちはサタンに勝利する。」

では、実際にどのようにするのかを示したいと思えます。その前に、旧約聖書から一つ例を取り上げましょう。出エジプト記 12 章に、過ぎ越しの儀式が書かれています。それは、神が、過ぎ越しの子羊の犠牲を通して、イスラエルの民全員を完全に守るという儀式であることをご存知でしょう。しかし、その守りを確かにするために、彼らは子羊と子羊の血で決められたように行なわなければなりません。その箇所を開く前に、Iコリント 5 章をお読みしたいと思います。7 節の最後の部分です。

「私たちの過越の小羊キリストが、すでにほふられたからです。」

言い換えれば、パウロが言っているのは、旧約聖書のエジプトでの過越しは単なる預言的描写で、十字架でのイエスの犠牲的な死によって完成されるものの予告編であるということです。キリストこそが真の過越しです。それは、過ぎ越しの子羊の血ではなく、イエスの血で、永遠の贖いの私たちへの最終的な確信です。

しかし、イスラエルが子羊の血を用いた方法は、私たちにとって素晴らしい模範です。出エジプト 12:21-23 を読みましょう。この過ぎ越しの儀式の方法は、聖書に多く示されている、父親としての大きな責任の一つでもあります。なぜなら、イスラエルにおいて、民の安全と救いを得させることができた人は、イスラエルの父親たちだけだったからです。イスラエルの父親たちが義務を怠っていたなら、イスラエルは過ぎ越しによって守られることはありませんでした。そして、私が個人的に考えることですが、今日、私たちに直面している最も大きな社会的問題は、父親たちの怠慢です。私は、子どもの問題を抱えた親たちのカウンセリングで何度も言っていることですが、怠慢な子どもはいません。ただ、両親たちが怠慢であるということです。私たちが考える、中絶、薬物、家族崩壊、その他様々な社会的な悪の問題は、その根源をたどっていくと、それは父親の怠慢であると考えます。過ぎ越しの文脈の中で、もし父親が失敗していたら、イスラエルは決して贖われることはなかった、ということをお願いしたいのです。神は別の計画を持ってはおられませんでした。そのご計画だけでした。そして、それは父親たちにかかっていたのです。出エジプト 12:21-23 です。

「そこで、モーセはイスラエルの長老たちをみな呼び寄せて言った。『あなたがたの家族のために羊を、ためらうことなく、取り、過越のいけにえとしてほふりなさい。ヒソプの一束を取って、鉢の中の血に浸し、その鉢の中の血をかもいと二本の門柱につけなさい。朝まで、だれも家の戸口から外に出てはならない。主がエジプトを打つために行き巡られ、かもいと二本の門柱にある血をご覧になれば、主はその戸口を過ぎ越され、滅ぼす者があなたがたの家に入って、打つことがないようにされる。』」

それが、過越しと言われるゆえんです。主が子羊の血で守られた戸口を過ぎ越してくださるからです。

さて、彼らがしなければならなかったことについて考えてみましょう。ある一定期間の間に、それぞれの家の父親は家族のために、ふさわしい大きさの子羊を選ばなければなりません。そして、その子羊をほふり、その血を鉢に受けます。その血は非常に大切なもので、一滴も地面にこぼしてはなりません。

そして、子羊はほふられ、血は鉢の中にあり、それは守りを意味しますが、鉢が人を守るではありませんでした。それを決して敷居に落とさないように、鉢から、かもいと門柱に塗らなければなりません。誰も血の上を歩いてはなりません。イスラエルの全運命が鉢から戸口に移された血にかかっていたのです。彼らはどのようにそれをしたでしょうか。とてもシンプルです。神は、小さなヒソプの束を取るように言いました。ヒソプは、中東のどこにでも生えている雑草の一種です。そのヒソプの束を引き抜き、鉢の中の血にそれを浸し、かもいと門柱に振りかけます。つまり、ヒソプは取るに足りないもの、ある意味重要でないものであるにもかかわらず、イスラエルの救いに不可欠なものとなりました。

そして、神はもう一つのことを言われました。血がかもいと門柱に振りかけられたら、家の中に留まるということです。外に出てはいけません。なぜなら、あなたが血の外に出しまうと、守られないからです。

出エジプト記 12 章を指で押さえたまま、I ペテロ 1:1-2 を少し見てみましょう。これは、ペテロのあいさつです。

「イエス・キリストの使徒ペテロから、ポント、ガラテヤ、カパドキヤ、アジヤ、ビテニヤに散って寄留している、選ばれた人々、すなわち、父なる神の予知に従い、御霊の聖めによって、イエス・キリストに従うように、またその血の注ぎかけを受けるように選ばれた人々へ。」

注ぎかけの前に何か来ていますか。従う、従順です。血は、不従順な者には注ぎかけられません。従わず、家の外に出て行く者にはその効き目はありません。ですから、忘れないでください。血による完全な守りがありますが、それは従順な者に対してのみです。

では、過ぎ越しの儀式に戻りましょう。血は、鉢の中にあり、かもと門柱に移されなければなりません。彼らはヒソプの束を取り、それを血に浸して、かもと門柱に振りかけました。彼らは安全でした。パウロは、キリストが私たちのために犠牲になった過越しであると言っています。言い換えれば、キリストは、2千年前にほふられたということです。血は鉢の中にあると言っていますが、鉢の中の血は誰をも守りません。私たちは、イスラエルと同じ状況にあります。私たちは、自分たちの置かれているところで鉢から血を得ています。そして、私たちが従順であるなら、守られています。では、私たちは鉢からいただいているイエスの血を、どのようにして私たちの置かれている場所に移すのでしょうか。

黙示録 12:11 に戻ってみましょう。

「兄弟たちは、小羊の血と、自分たちのあかしのことばのゆえに彼に打ち勝った・・・」

先ほど、私たちは何と宣言したか覚えていますか。「イエスの血潮が私たちのためにしてくださったことを神のことばが何と言っているかを、個人的にあかしする時、私たちはサタンに勝利する。」鉢の中から私たちの置かれている場所に血を移す者は何でしょうか。その通り、私たちのあかしです。あかしは、とてもシンプルなもので、みことばによるわずかなことばのことです。それは、小さなヒソプの束のようですが、私たちを救うものです。私たちの守りです。私はあなたのあかしの重要性を、強調しすぎているとは思いません。

もう一箇所、非常に関連しているヘブル 3:1 を取り上げましょう。

「そういうわけですから、天の召しにあずかっている聖なる兄弟たち。私たちの告白する信仰の使徒であり、大祭司であるイエスのことを考えなさい。」

ヘブル書の著者は、イエスは私たちの告白する大祭司であると言っています。告白とは何でしょうか。告白とは、同じことを言うという意味です。聖書とイエス・キリストを信じる私たちにとって、告白とは、神がみことばで語っておられるのと同じことを私たちの口で言うことです。私たちの口のことばを神のことばと一致させます。そして、イエスは、私たちの告白する大祭司です。みなさん、告白なくして、大祭司はありません。イエスは、ただあなたが正しい告白をするときにのみ、あなたのために弁護ができます。あかし、また告白と呼ばれるそれは、神の救いを受けるために必ず絶対に必要なものです。イエスは、あなたのことばによって、あなたが義とされ、また、あなたのことばによって、罪に定められと言っています。あなたが語ることばが、あなたの運命を決定づけます。ヤコブは、舌は、船のかじのようなもので、船のとても小さな部分ではあるが、船がどこへ行くのかを決めると言っています。あなたは、正しいことを言って、神のことばに同意してあなたの口のことばを語るか、間違った言葉を語り、人生の道を外すこともできます。あなたの舌の

用い方に従って、あなたは安全に港に着くか、難破してしまうかのどちらかです。

クリスチャンとして、私たちの実に多くが、自分たちの舌の用い方において不注意すぎる場所があります。神があなたを尊いと考えているのに、あなた自身を過小評価しないでください。神は、あなたにイエスの血を与えてくださいました。あなたが自分をつまらないと非難する時、あなたがしていることは、神の創られたものを非難していることになるのです。なぜなら、聖書は、私たちは神の作品だと言っているからです。どうして、厚かましくも、私たちは神の作品を非難することができますか。高慢は、クリスチャンにとって大きな問題ですが、同じくらい大きなもう一つの問題は、私たちが何であるかではなく、神が何のために私たちを造ってくださったか、自分自身を過小評価することです。

ですから、イエスの血潮を鉢の中から、あなたが置かれている場所、あなたの生活にどのように移すのかを具体的にお話ししたいと思います。もちろん、みことばが何と言っているかをあなたが知らなければ、イエスの血潮についてみことばが何と言っているかをあなたは証明することはできません。ですから、一つの必須条件は、イエスの血潮について聖書が何を教えているかを知ることです。すでにお話ししましたが、新約聖書はイエスの血を七たび振りかけると言っています。きょうは、あなたの生活の中で、イエスの血を七たび適用することについて考えてみましょう。新約聖書が啓示している、イエスの血潮が私たちに働く、七つの方法があります。

第一は、贖いです。聖書箇所を 2 か所開きましょう。まず、エペソ 1:7 です。

「この方にあつて私たちは、その血による贖い、罪の赦しを受けています。」

贖いの意味は、買い戻すことです。私たちは悪魔の手に渡されていました。イエスがご自身の血潮によって私たちを買い戻してくださったのです。

もう一箇所、I ペテロ 1:18-19 です。

「ご承知のように、あなたがたが父祖伝来のむなしい生き方から贖い出されたのは、銀や金のような朽ちる物にはならず、傷もなく汚れもない小羊のようなキリストの、尊い血によつたのです。」

小羊という言葉は、過ぎ越しを思い起こさせます。過ぎ越しの子羊です。イエスは、傷もなく、原罪もなく、汚れもなく、個人的な罪もありませんでした。そして、私たちは、イエスの血潮によって贖われたのです。

その文脈から、詩篇 107:2 を開けてみましょう。

「主に贖われた者はこのように言え。主は彼らを敵の手から贖い・・・」

敵とは、だれでしょうか。サタンです。しかし、私たちは贖われるために何をしなければなりませんか。その通りですと言わなければなりません。そのように言わなければ、贖いはありません。お分かりですか。それを機能させるのは、あなたの告白、あなたのあかしです。そうしなければ、血潮は鉢の中に残ったままです。

何と言うべきかを考えてみましょう。例を挙げてみましょう。これは単なる一例にすぎませんが、私の個人的なあかしは、悪の手から贖ってくださったイエスの血潮を通してです。私は、自分がどこでイエスに出会ったかを疑うことはありません。私は、悪の手の中にありました。それについて何の疑いも抱いていません。しかし、今日私は、そこにはいません。私は悪の手からイエスの血潮によって贖い出されたからです。

では、私と一緒に、宣言することによって祝福を受けるように、みなさんをお招きしたいと思います。これは、とても具体的なメッセージで、多くのことについて、どのように行なうかをみなさんに紹介します。そして、あなたが協力する度合いによって祝福の度合いが決まります。では、私が区切りながら言いますので、まず、私のあとについて言ってください。いいですか。「イエスの血潮によって、私は悪の手から、救い出された。」はい、では、今度は一緒に言きましょう。「イエスの血潮によって、私は悪の手から、救い出された。」

素晴らしいです。みなさんがとても知的に見えます。それを他の誰かに言うことは、とても重要です。ですから、みなさん、隣や前後の人の目を見て、恥ずかしがらずに、宗教臭くならずと言ってください。「イエスの血潮によって、私は悪の手から、救い出された。」できましたか。

ある人は、それを言ったことで、経験したことがないほど自由になりました。何かはその人に起こったのです。イエスの血潮が与えてくださる 2 つ目のものは、きよめです。I ヨハネ 1:7 を開きましょう。

「しかし、もし神が光の中におられるように、私たちが光の中を歩んでいるなら、私たちは互いに交わりを保ち、御子イエスの血はすべての罪から私たちをきよめます。」

原語では、この節のすべての動詞は、現在進行形です。それを理解することは重要です。私たちが光の中を歩み続けるなら、互いに交わりを持ち続けているのです。また、あなたが光の中を歩んでいるというしるしは、あなたが交わりを持っているということに注目してください。もし、あなたが光の外に出てしまうなら、きよめられません。それは、実に重要な事実です。血潮は暗闇の中できよめることはありません。

私たちが光の中を歩み続けるなら、私たちは互いに交わりを持ち続け、御子イエスの血はすべての罪から私たちをきよめ続けてくださいます。継続した備えです。私たちがどこにしようと、私たちが光の中にいるなら、最も汚れた状況に合ったとしても、最も不道徳な人々の中にも、数えきれないほど多くの悪が私たちに圧倒しても、私たちが光の中を歩み続ける限り、血潮は続けて私たちをすべての罪からきよめ続けてくれるのです。

もう一つ、素晴らしいことを紹介しましょう。I ヨハネに指を挟んだままにして、詩篇 51 篇を少し見てみましょう。これは、ダビデが姦淫と殺人という 2 つの恐ろしい罪を示されたあとの大いなる悔い改めの詩篇で、ダビデは、悔い改めの大きな叫びと、あわれみを求めて神に立ち返りました。全部を読むことはできませんので、7 節でダビデが言っていることを見てみましょう。

「ヒソブをもって私の罪を除いてきよめてください。そうすれば、私はきよくなりましょう。私を洗ってください。そうす

れば、私は雪よりも白くなりましょう。」

ヒソブという言葉が使われていますね。ダビデの頭の中に何があったのでしょうか。過ぎ越しです。彼は何を考えていたのでしょうか。そう、血潮です。ヒソブを持って私の罪を除いてきよめてください。そうすれば、私はきよくなりましょう。私を洗ってください。そうすれば、私は雪よりも白くなりましょう。罪に定められた時に、行くべきところを知っているというのは、なんという特権でしょうか。今、これを聞いてくださっているお一人お一人にその特権が与えられています。みなさん、少し静まって、何十億という罪ある人々がどこに行けばよいのかわからないことについて考えてみてください。あなたは、自分の罪の現実の苦しめられ、赦しと平安がどこにあるのかをわからないことがどのようなものかを想像してみてください。今日の人類の半数がその状況にあるのです。

では、Iヨハネに戻り、あるパターンをお教えします。このように言えると思います。「私が光の中を歩んでいる間、イエスの血は今も、そして続けてすべての罪から私をきよめてくださる。」私がこれを言うのは、今ここでそれをしたいからです。しかし、今だけではなく、今この瞬間からずっと、私は光の中を歩んでいきます。私の後について言ってくださいますか。「私が光の中を歩んでいる間、イエスの血は今も、そして続けてすべての罪から私をきよめてくださる。」では、一緒に言いましょ。う。「私が光の中を歩んでいる間、イエスの血は今も、そして続けてすべての罪から私をきよめてくださる。」

3つ目の大いなる備えは義認です。義認とは、ある人々は好きではない神学用語ですが、それほど悪いものではありません。ギリシャ語の基本的意味は、「義を作ること」です。しかし、それには多くの異なった側面の意味があります。まず、みことばを開きましょう。ローマ 5:9 です。

「ですから、今すでにキリストの血によって義と認められた私たちが、彼によって神の怒りから救われるのは、なおさらのことです。」

つまり、私たちはイエスの血によって義とされたのです。このように言えば、理解してもらえるでしょうか。あなたは、死刑に値する罪のために法廷で裁判を受けています。あなたの命が問われています。そして、判決は無罪となりました。それが義認です。無罪とされました。もっと大きな意味があります。あなたは、あなた自身の義ではなく、イエス・キリストの義で、義とされたのです。しかし、それはまた、あなたは義人とされたという意味です。それがそのすべての意味です。無罪、罪に定められない、義とみなされた、義人とされた、です。

イザヤは、私たちの義はみな、汚れた着物のようであると言っています。しかし、その汚れた着物を捨て、イエスの血でイエスの義をあなたに着せてください。そうすれば、悪魔はあなたを非難することはできないのです。

先ほどのローマ書に指を挟んだままにして、次の美しいみことばを見ましょう。イザヤ 61:10 です。

「わたしは主によって大いに楽しみ、わたしのたましいも、わたしの神によって喜ぶ。主がわたしに、救いの衣を着せ、正義の外套をまとうせ、花婿のように栄冠をかぶらせ、花嫁のように宝玉で飾ってくださるからだ。」



あなたが得るものが 2 つあります。救いと義です。あなたがイエス・キリストを信じ、あなたのためにいけにえとなられたことを信じる時、あなたは救いの外套を着せられます。でも、それで終わりではありません。あなたは、義の外套で覆われます。ある聖書訳では、主は私を義の外套でくるんでくださったとあります。あなたは、イエス・キリストの義で完全に覆われています。悪魔はあなたに対して何も言うことができません。もしサタンが、あなたは多くの過ちを犯したと告げたら、あなたがしなければならないことは何ですか。サタンに同意します。こう言ってください。「サタンよ、お前は正しい。しかし、それはみな過去の事だ。私は、イエス・キリストの義を身に着けている。それに何かの誤りがあるかどうかを見てみよ。」

では、ローマ 5:9 の内容に戻り、このように宣言をしたいと思います。注意して聞いてください。「イエスの血によって、私は義とされ、無罪とされ、罪に定められず、義とみなされ、義人とされた。あたかも一度も罪を犯したことがない者のように。」では、私の後について言ってください。「イエスの血によって、私は義とされ、無罪とされ、罪に定められず、義とみなされ、義人とされた。あたかも一度も罪を犯したことがない者のように。」深呼吸して言ってください。「神さま、感謝します。」

では、先へ進みましょう。次は、聖化、聖別です。ヘブル 13:12 を開きましょう。

「ですから、イエスも、ご自分の血によって民を聖なるものとするために、門の外で苦しみを受けられました。」

さて、聖化とは、もともとは聖さ(holiness)の単語と直接関連しています。聖化するとは、英語の聖徒と同じ意味です。ですから成果とは、きよい者とする、きよくするという意味です。それには 2 つの側面があります。一つは否定的な側面です。私たちは罪や汚すあらゆるものから、分離されます。そして、神ご自身の聖さで聖くされるのです。ヘブル 12:10 で、神の懲らしめについて語られており、肉の父親は短い期間、自分が良いと思うままに私たちを懲らしめると言っています。しかし、神は別の方法でそれをされます。ヘブル 12:10 です。

「なぜなら、肉の父親は、短い期間、自分が良いと思うままに私たちを懲らしめるのですが、霊の父は、私たちの益のため、私たちをご自分の聖さにあずからせようとして、懲らしめるのです。」

私たちの聖さではなく、神の聖さが私たちの義に勝ります。私たちは、どのようにして神の聖さにあずかるのでしょうか。イエスの血によってです。イエスは、辱めを受け、苦しんだご自身の血で人々をきよめるのです。

血潮の働きをどのように適用するかを示してみましょう。「イエスの血によって、私はきよめられ、罪から離され、神に選ばれ、神の聖さで聖とされました。」私が今のことばを全部覚えているかわかりませんが、やってみましょう。私の後について言ってください。「イエスの血によって、私はきよめられ、罪から離され、神に選ばれ、神の聖さで聖とされました。」

私たちが毎回してきたことはすべて、鉢の中にヒソブを浸し、私たちに振りかけることでした。では先へ進みましょう。私たちは、贖い、洗い、義認、聖化を取り扱ってきました。では、いのちに移りましょう。私は、ある説教者がイエスの血潮の備えはみな否定的なものだけで、それは単に何かから私たちを救うだけだと言っていたのを聞きました。その

発言はとても危険です。私には、いのち以上にポジティブなものは思いつきません。レビ記 17:11 を少し見てみましょう。

「なぜなら、肉のいのちは血の中にあるからである。わたしはあなたがたのいのちを祭壇の上で贖うために、これをあなたがたに与えた。いのちとして贖いをするのは血である。」

血はいのちを贖います。神のいのちは、イエスの血の中にあります。創造主、神ご自身のいのちです。創造主は、ご自身のすべての被造物よりもはるかに大いなる方であるため、私たち人間の頭では、そのことばの潜在性をはかり知ることはできません。造られた全宇宙は、神が指を鳴らしただけのものです。私たちがイエスの血に何があるのかを理解できたと思います。イエスの血の一滴は、サタン王国全体にあるものよりも、はるかに力があるのです。なぜなら、私たちは、永遠の、被造物でない、まだ何も創造されていなかった、イエスの血の中にある神ご自身の測り知れないいのちを得たのです。

それを念頭に置いて、ヨハネ 6:53-57 を読みましょう。

「イエスは言われた。『まことに、まことに、あなたがたに告げます。』」

イエスの教えには 2 つのレベルの強調があります。時には、「まことに、まことに、」となっています。まことにとは、重要だという意味です。まことに、まことに、は非常に重要だという意味です。ですから、ここは、非常に重要なことばの一つです。

「イエスは彼らに言われた。『まことに、まことに、あなたがたに告げます。人の子の肉を食べ、またその血を飲まなければ、あなたがたのうち、いのちはありません。わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、永遠のいのちを持っています。わたしは終わりの日にその人をよみがえらせます。わたしの肉はまことの食物、わたしの血はまことの飲み物だからです。わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、わたしのうちにとどまり、わたしも彼のうちにとどまります。生ける父がわたしを遣わし、わたしが父によって生きているように、わたしを食べる者も、わたしによって生きるのです。』」

それに当てはまるものはたくさんあります。私は、エルサレムの北のラマラというアラブ人の町で 1946 年にクリスチャンの働きを始めました。現在そこは、もはや町ではなく、大都会となっています。当時、私の最初の妻はと子どもたちが家で話す言葉はアラブ語でした。そして、入ったら抜け出せない特定のことがありました。聖餐式のことを考えると、私はいつも、アラブ語で言っていることを思い出します。「イエスの血を飲みましょう。」それは、何か超霊的なフレーズではなく、聖餐式で使われる彼らの言い方です。それには多くの適用法があると思いますが、私には聖餐式の時、イエスの肉を食べ、イエスの血を飲みます。ある人にとってはつまずきの石となるかもしれませんが、私はそうする以外にどうすることもできません。

私たちの中には、記念のようにそれを行なうと教えられた人もいます。それはイエスが言われたことではありません。イエスは言われました。「あなたがたは、私の肉を食べ、私の血を飲む。」私たちは、それを記念としても行

ないですが、それだけではないことは確かです。私たちは確かに、主イエス・キリストの体と血にあずかっています。それを変える理由はありません。それがどのようにして体と血になったのかには、さまざまな意見があります。カトリックと聖公会は、それは、祭司による奉獻を通したものだと思っています。率直に言うと、それは私の信じているものではありません。私は信仰によるものだ信じます。聖書のイエスのことばを信じる信仰によってそれを受け取る時、それは、私にとってまさしくイエスが言った通りとなるのです。それに関して疑問を持つ方もいるかもしれませんが、私はそう信じています。

I コリント 10:16 を見てみましょう。

「私たちが祝福する祝福の杯は、キリストの血にあずかることではありませんか。私たちの裂くパンは、キリストのからだにあずかることではありませんか。」

パウロは、続く 11 章で、主の晩餐の方法を 23 節以降で彼らに思い起こさせています。

「私は主から受けたことを、あなたがたに伝えたのです。すなわち、主イエスは、渡される夜、パンを取り、感謝をささげて後、それを裂き、こう言われました。『これはあなたがたのための、わたしのからだです。わたしを覚えて、これを行いなさい。』」

イエスを覚えてそれを行なうことは、まったくの真実ですが、イエスの何を覚えるのでしょうか。私たちはからだにあずかります。

「夕食の後、杯をも同じようにして言われました。『この杯は、わたしの血による新しい契約です。これを飲むたびに、わたしを覚えて、これを行いなさい。』ですから、あなたがたは、このパンを食べ、この杯を飲むたびに、主が来られるまで、主の死を告げ知らせるのです。」

さて、私は、それを力強く言いたいと思いますが、みなさんが私と妻のようになるようには勧めません。キリストのからだには素晴らしい自由があり、神さまが私たちを導く一定の限度内で行なうことができます。これは、私にとって大変重要となり、私の神のいのちへの必要性をとてつもなく感じるのです。謙遜になって言いますが、私は、自分が神のいのちのための広告塔だと思っています。ほとんどの方は、私が 71 歳とは思えないでしょう。それは、イエスのからだに血に生きていることも一因だと思っています。私にとってこれは教理や論説ではなく、まさに生きた現実のものです。

みなさんに同じことをするようには言いませんが、私たちは夫と妻として毎朝一緒に聖餐式をしています。そして、毎朝私は同じことを言います。私はパンを裂き、言います。「主イエスさま、私たちは、このパンをあなたの肉として受け取ります。」そしてそれを食べます。それから、小さな一つのコップを取り、言います。「主イエスさま、この杯をあなたの血としていただきます。」そして、私は言います。「私たちがこれを行なうとき、あなたが来られるまであなたの死を告げ知らせます。」クリスチャンが国の 1% 以下しかいない場所、おもにエルサレムでやっていたことは、そんな感じでした。イエスが死なれた町で毎日主の死を宣言することは、何と言う特権でしょう。

19 世紀の偉大な聖書解説者の一人がこのように言いました。あなたは、主が来られるまで主の死を宣言する。彼は、私たちがこの聖餐式に来るとき、ただちにその文脈の外にいたのだと言いました。私たちには、十字架以外の過去はなく、再臨以外の未来はありません。私たちは、主が来られるまで、主の死を宣言します。そして、それを行なうたびに、主が再び来られることを自分自身に言い聞かせるのです。

では、どのようにそれを告白するのでしょうか。ただ信仰によって行ないます。今ここで聖餐式を行ないませんし、誰に対する勧めでもありませんが、ただ宣言しましょう。「主イエスさま、私たちはあなたの血にあずかるとき、その中にあるあなたのいのちを受け取ります。それは神のいのちで、聖なる永遠の無限のいのちです。」では、私の後について教えてください。「主イエスさま、私たちはあなたの血にあずかるとき、その中にあるあなたのいのちを受け取ります。それは神のいのちで、聖なる永遠の無限のいのちです。主よ、感謝します。」

主を礼拝する時を持ちましょう。今、主を受け取りましょう。聖なるいのちがあなたを満たしますように。あなたの心、思い、肉体にも満ちますように。パウロは、死は勝利にのみれると言っています。私たちのからだの死、病、衰えなど、日々神のいのちに飲み込まれていく進行中の死のプロセスがあると思います。パウロは、私たちの外面上の人は朽ちるが、内なる人は、日々新しくされると言っています。そして、私たちの働きが終わるまで、外面上の人を保つために内なる人には十分な命があります。

あと2つイエスの血の働きを紹介します。6 つ目は、とりなしです。ヘブル 12:22-24 を開きましょう。その時制に注目してください。近づいている、という言葉で始まっています。私たちは、聖霊に来るのでも、肉に来るのでもなく、聖霊において、近づいて行くのです。近づくものが 8 つ挙げられています。

「シオンの山」、それが一つ目です。

二つ目、「生ける神の都、天にあるエルサレム」 地上のエルサレムではなく、天にあるエルサレムです。

三つ目、「無数の御使いたちの大祝会」です。御使いたちは私たちのために最高の衣を着ています。どんな服装であっても、無数の御使いたちの集まりを見るだけでも素晴らしいのですが、それは最高の大祝会です。

妻と私は今から 3 年前、アイルランドのベルファストという町におり、ある家で、リーダーグループの小さな集まりを持っていました。そして、私たちが主の前に、また互いにへりくだった時、神の臨在が私たちの内に働きました。そして、妻は、およそ 10 分間無数の御使いたちの集団が、ただ何度も何度も通って行くのを見ました。それから、妻が目を閉じた後、御使いの一人がその部屋の中に来ました。これは、今日私たちが経験しうるすべてではありません。私たちは、新約聖書の人々と少しも違っていない。彼らは私たちと同じような人々でした。

私たちはシオンの山、天にあるエルサレム、無数の御使いたちの大祝会に近づきます。

四つ目、「天に登録されている長子たちの教会」 新しく生まれ変わった人々、その名が天に記されている人々です。

五つ目、「万民の審判者である神。」 さばきの神以上のものがあることを感謝します。

六つ目、「全うされた義人たちの霊。」それは、私たちが新生によって達成できるものを、生涯の信仰の歩みによって達成した旧約聖書の聖徒たちであると信じます。

七つ目、「新しい契約の仲介者イエス」です。それこそ、私たちが天に行ける理由です。審判者なる神だけだったら、私たちは決してそこに行けないのです。しかし、審判者なる神とともに、新しい契約の仲介者イエスがおられます。

そして、最後 8 つ目は、「アベルの血よりもすぐれたことを語る注ぎかけの血」です。天で私たちのために語るイエスの血の注ぎかけが、アベルの血と比較されています。その比較にはおもなポイントが 3 つあります。アベルの血は、彼の意志に反して流されました。イエスは、喜んでご自身の血を与えました。アベルの血は、地面に注がれました。イエスの血は、至聖所で注がれました。アベルの血は、復讐の血と呼ばれました。イエスの血は憐みを請うものでした。これは、本当に美しい啓示です。だれも、その恩恵に漏れる人がいないように願います。

私たちには、弱くなる時があり、プレッシャーを感じる時があり、祈ることさえできず、もう生きてはいけないと思うときがあります。そのようなときに、直接の神の臨在におけるイエスの血の注ぎかけは、憐みを求めて常に語ってくださいます。

この真理にふさわしい小さな告白をしましょう。私が始めます。「主よ、感謝します。私が祈ることさえできないとき、イエスの血が天で私のために懇願してくださいます。」では、みなさん。準備はいいですか。私の後について教えてください。「主よ、感謝します。私が祈ることさえできないとき、イエスの血が天で私のために懇願してくださいます。」もう一度一緒に言いましょ。「主よ、感謝します。私が祈ることさえできないとき、イエスの血が天で私のために懇願してくださいます。」アーメン。

最後に、私たちはイエスの血によるアクセスがあります。これら最後の 2 つの血潮の備えは、時間の領域を出て、私たちが最終的にたどり着きたい、天と永遠の領域の中へと私たちを導きます。ヘブル 10 章に戻りましょう。19 節以降です。これは、神の備えの一部であると思います。ヘブル 10:19 節からです。

「こういうわけですから、兄弟たち。私たちは、イエスの血によって、大胆にまことの聖所に入ることができるのです。イエスをご自分の肉体という垂れ幕を通して、私たちのためにこの新しい生ける道を設けてくださったのです。また、私たちには、神の家をつかさどる、この偉大な祭司があります。そのようなわけで、私たちは、心に血の注ぎを受けて邪悪な良心をきよめられ、からだをきよい水で洗われたのですから、全き信仰をもって、真心から神に近づこうではありませんか。約束された方は真実な方ですから、私たちは動揺しないで、しっかりと希望を告白しようではありませんか。」

大胆に、とは、自信を持ってです。ギリシャ語の単語の意味は、「語る自由」です。大胆さは、私たちに語る自由を与えるというのは、非常に重要です。言い換えれば、それは私たちのあかしであることを忘れないでいましょう。もし、私たちが証言しないなら、私たちは大胆さを持つことはできません。

ヘブル 3:1 は、イエスは私たちが告白する大祭司であると言っています。ヘブル 4:14 は、告白を堅く保とうと言っていますが、ヘブル 10:23 は、動揺しないで、と言っています。それはどういうことでしょうか。あなたが飛行機に乗っ

ていて、シートベルトをしっかり締めるようにと言われたら、あなたが考えることは何ですか。そう、乱気流です。神のことばが、告白せよと言うとき、告白を動揺しないで堅く保ってください。それは、嵐が来るであろうから、神があなたのシートベルトをしっかりとして締めてなさいと言っているようなものです。しかし、嵐にあなたのシートベルトを外させないでください。正しい告白を保ってください。あなたが完全に四面楚歌だと思える時でも、神のことばは、真実です。

あなたは、新しく生ける道で至聖所に行くことができると知るでしょう。レビ記 16 章、大祭司が年に一度至聖所に入っていることは何でしたか。大祭司は、かおりの高い香を持って入り、香から出る雲があかしの箱のふたを覆うようにします。それが礼拝です。しかし、大祭司は、また、いけにえの血を持って入り、垂れ幕と贖いのふたの間に七たび振りかけました。一回、二回……七回振りかけ、それから、主の前にある祭壇の東側にそれを塗ります。ヘブル書の著者が、新しい生ける道によってイエスの血を通して大胆さを持つと言っているのは、七たびの血の注ぎかけと贖いのふたの血について考えているのです。私たちは、イエスの血のゆえに、全能の神の御座と宇宙の至聖所に近づくことができるのです。私たちには道があります。

私たち自身について何を言うのでしょうか。このように言いましょう。「主よ、感謝します。イエスの血の注ぎかけを通して、私にはあなたの臨在の中に、全能の神の臨在の中に、宇宙の至聖所の中への道があるからです。」

では、七つの備えを復習して終わらしましょう。順番が変わっても構いませんが、これは論理的な順序ではありません。贖い、洗い、義認、聖化、いのち、とりなし、そして道です。七たびの注ぎは、七つの方法で私たちの内に働くのです。しかし、忘れないで下さい。私たちは、小羊の血と何によってサタンに勝利するのですか。私たちのあかしのことばです。それを一緒に言って終わらしましょう。しかし、もう一つ、私たちは死に至るまでもいのちを惜しまないと付け加えることを忘れないでください。いいでしょうか。「私たちは、小羊の血と、自分たちのあかしのことばのゆえに彼に打ち勝つ。私たちは死に至るまでもいのちを惜しまない。」

今、私たちができる論理的なことが一つだけあります。それらすべてを思い巡らし、神を賛美することです。神を賛美しないなら、私たちはそれを信じていないということです。